

深谷城跡(深谷市)

ここは深谷城址公園/深谷城の本丸から東曲輪跡とされるエリア



石垣等がイミテーションとして建設されている







深谷城址公園



この公園は原址上にある植物の一部に、神倉宮跡と御殿跡を中心とした。築城後、約400年間にわたる歴史を刻み、深谷城址公園として整備された。遺跡には、江戸時代後期の藩政の中心地として、約150m四方の範囲に、土壁、土塼、土壇、土坑、土溝、土柱跡、土礎跡などがあり、江戸時代後期の藩政の中心地として、約150m四方の範囲に、土壁、土塼、土壇、土坑、土溝、土柱跡、土礎跡などがある。深谷城址公園は、江戸時代後期の藩政の中心地として、約150m四方の範囲に、土壁、土塼、土壇、土坑、土溝、土柱跡、土礎跡などがある。

深谷城跡

深谷城址公園は、江戸時代後期の藩政の中心地として、約150m四方の範囲に、土壁、土塼、土壇、土坑、土溝、土柱跡、土礎跡などがある。深谷城址公園は、江戸時代後期の藩政の中心地として、約150m四方の範囲に、土壁、土塼、土壇、土坑、土溝、土柱跡、土礎跡などがある。



深谷城跡の概略図
1. 本丸
2. 二ノ丸
3. 三ノ丸
4. 四ノ丸
5. 五ノ丸
6. 六ノ丸
7. 七ノ丸
8. 八ノ丸
9. 九ノ丸
10. 十ノ丸

Guide to the Old Castle of Fukaya
- Fukaya Castle was one of the castles of the old Edo domain of the Tokugawa shogunate. It was built in 1665 and was destroyed in 1868. The site is now a park and is a popular place to visit. The main structure was the main residence of the lord of the domain. The castle was built on a hill and was surrounded by a moat. The site is now a park and is a popular place to visit. The main structure was the main residence of the lord of the domain. The castle was built on a hill and was surrounded by a moat. The site is now a park and is a popular place to visit.

現在は公園の東側にある富士浅間神社に堀跡が残っているのみと記されている

深谷城は、唐沢川、福川などに囲まれた低湿地に築かれた平城である。

室町時代中期の康正2年（1456）、深谷上杉房憲が、古河公方の侵攻に備えて、築城したと伝えられる。

土塁や深い濠を巡らした城は、面積約20ヘクタール、その形から木瓜城とも呼ばれた。

天正18年（1590）、豊臣秀吉の関東攻めによって開城するまで、憲清、憲賢、憲盛、氏憲と、134年間にわたり、戦国時代の北武蔵における上杉方の支城であった。

徳川家康の関東入国後は、徳川一族や譜代家臣の居城であったが、寛永11年（1634）、廃城となった。

現在は、深谷上杉氏の祈願社であった富士浅間神社（智形神社）の社殿を巡る池と水路に、往時の姿をとどめるのみである。

Guide to the Old Castle of Fukaya

Fukaya Castle was built in the swamps by the Lord, Uesugi Fusanori in 1456.

This Castle was called Boke-Jo in Japanese because its design was similar to the blossom of the Japanese quince.

The Castle had low banks and a deep river around it, covering an area of about 20 square hectares.

After Toyotomi Hideyoshi attacked kanto in 1590, the Lords of Tokugawa's clan resided here until 1634.



深谷古城図 (武蔵志所載)

現状は本丸から東曲輪跡が深谷城址公園、二の丸跡が深谷小学校、西曲輪跡が高台院、そして掃部曲輪跡が管領稲荷のエリアであり土塁や水堀の跡が残っているとのこと







深谷城址公園 ご案内

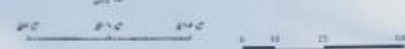
この公園は深谷上杉氏の城址の一角に、市の文化教養の中心地区として、未来永劫にわたって市民のふるさととして親しまれることを願って整備されました。深谷城址という歴史性を都市の運動の中に融合させ、市民文化会館、コミュニティセンター、保健センター等が一体となって多様な利用がはかれることを基本にたれもが気軽に利用でき、みんなが施設を同じように使えるように工夫してあります。芝生広場や花壇、休憩広場などがあり、園内の散策を楽しんでいただくために園路が設けられてあります。途中、読書広場やあすまや、ベンチが設置してあります。周囲には樹々が生い茂り、草花も揃ってあります。春には桜も満開になります。四季折々の姿を楽しんで下さい。

この公園は、深谷上杉氏の城址の一角に、市の文化教養の中心地区として、未来永劫にわたって市民のふるさととして親しまれることを願って整備されました。深谷城址という歴史性を都市の運動の中に融合させ、市民文化会館、コミュニティセンター、保健センター等が一体となって多様な利用がはかれることを基本にたれもが気軽に利用でき、みんなが施設を同じように使えるように工夫してあります。芝生広場や花壇、休憩広場などがあり、園内の散策を楽しんでいただくために園路が設けられてあります。途中、読書広場やあすまや、ベンチが設置してあります。周囲には樹々が生い茂り、草花も揃ってあります。春には桜も満開になります。四季折々の姿を楽しんで下さい。

目の不自由な方の案内板です。
大切にしましょう。



- 駐車場
- トイレ
- 水飲み



これは深谷城址公園を南西側から見たところ





西側の公園入口







深谷城址公園



この公園は深谷上杉氏の城址の一角に、市の文化教養の中心地区として、未来永劫にわたって市民のふるさととして親しまれることを願って整備されました。深谷城址という歴史性を都市の躍動の中に融合させ、市民文化会館、コミュニティセンター、保健センター等が一体となって多様な利用がはかられることを基本にだれもが気軽に利用でき、みんなが施設を同じように使えるように工夫してあります。芝生広場や花壇、休憩広場などがあり、国内の散策を楽しんでいただくために園路が設けられています。途中、読書広場やあずまや、ベンチが設置してあります。周囲には樹々が生き茂り、草花も植えてあります。春には桜も満開になります。四季折々の姿を楽しんで下さい。

位 置 深谷市本住町
公園面積 約1.8ha

深谷市

これは公園から西にある深谷小学校を見たところ/正面前方



正面が深谷小学校の校庭にある「史蹟 深谷城址」と記された石碑



アップで見る





深谷市立深谷小学校



さて、ここは深谷城の東側にある富士浅間神社



標柱に童謡「みかんの花咲く丘」誕生の地/加藤省吾歌碑とある



この標柱には「深谷市指定文化財 深谷城外濠跡」とある



社殿の周囲の池と水路は深谷城の外濠の名残りという



富士浅間神社

この社の祭神は木花開耶姫命このはなさくやひめのみこと瓊に々々に様の尊をで 社室は宗源宣旨と宗源祝詞である

明治以前には智形神社とよばれ、深谷城内に鎮守としてまつられた五社の一つで、永享十二年（一四四〇年）勸請と伝えられてゐる。江戸時代、寛永年間深谷城主酒井讒岐守が再興した。深谷城は、上杉房憲が康正二年（一四五六）古河公方の戦いに備えて築城したもので、天正十八年（一五九〇年）豊臣秀吉の関東攻略により落城した。江戸時代には、松平酒井氏が居城したが、寛永十一年（一六三四年）廢城となつた。この城は低湿地に取り巻かれた平城で、社をめぐる池と水路は深谷城外濠の名残りをとどめている

昭和五十九年三月 深谷上杉顕彰会

鳥居の手前に水堀跡がある/境内の南面





境内の東面にも水堀跡が続いている



この東面の水堀跡を南から北方向へと辿ってみる



堀幅が広がっている





左手は富士浅間神社社殿



振り返って見る



さて、西側の水堀跡を辿ってみよう







この先で水堀跡は左手に折れているが、そこで埋められてしまっている



そこから振り返って見たところ



この鳥居には巖島辨財天とある



南方向を見る



正面には琴平神社とある/境内社がいくつもあるようだ



さて、前方が富士浅間神社社殿



稲荷神社とある



さまざまな石造物がある



加藤省吾顕彰碑と歌碑









正面は富士浅間神社社殿



拝殿



振り返って見る



社殿を東側から見る/左手が拝殿、右手が本殿



本殿の東側の水堀跡を更に見てみる





社殿を取り巻くように続いている



振り返って見る





これは西側から社殿を見たところ



本殿の裏側に回る



これが北側の水堀跡



次に掃部曲輪跡とされる管領稲荷のエリアを見てみよう/正面は土塁の名残り



北側から見る



北東側から見る



南西側から見る



次は西曲輪跡とされる高台院のエリアを見てみよう



「高臺院一つ松」の石碑





山号深

Informational sign with Japanese text.

Vertical stone pillar with inscriptions.

正面は「深谷城主上杉憲賢公 室高泰姫 墓所」と記された石碑



裏手には深谷城の土塁が残っていると記されている



高台院の文化財

深谷市大字田谷三〇八番地

高台院は、曹洞宗の寺で、深谷山高台院永明寺
といひ、本尊は釈迦三尊坐像です。

永祿四年(一五六二)深谷城三代目城主上杉憲賢
の菩提を弔うため、憲賢室の高泰姫にまて再興され
姫の名にちなんで高台院と称するようになったと
伝えられています。

市指定記念物(史跡)

上杉憲賢室高泰姫墓 一基

昭和三十三年十一月三日指定

上杉憲賢室の高泰姫は、元龜四年(一五七三)三月
六日に七くなつています。

高泰姫の墓は、本堂の左奥にある宝篋印塔で、
塔身と基礎の四面に月輪で囲んだ種子を配して
います。

高泰姫の墓の右隣に、上杉憲賢の墓と伝えられる
宝篋印塔一基が建てられています。

市指定有形文化財(工芸品)

高台院銅鐘

一口

昭和三十四年十一月三日指定

高さ九八センチ、口径五五センチの梵鐘です。
寛政五年(一七九三)江戸時代中頃に当寺
境内で鑄造されたと伝えられています。

昭和六十年三月

深谷市教育委員会

本堂







裏手にある永明稲荷社の鳥居



鐘楼



この銅鐘は江戸時代中頃に鑄造されたもので深谷市指定文化財となっている



さまざまな石造物がある







前方が深谷城鎮守永明稻荷社



左手を見ると宝篋印塔が並んでいる





左手の宝篋印塔が高泰姫(たかやすひめ)の墓(深谷市指定史跡)、右手の宝篋印塔は上杉憲賢の墓と伝えられる



この前方に土塁が残っている



東側から見る



北側から見る



土塁の反対側に回り、北側から南方向を見る



土塁に登り南側から北方向を見る



左手斜面を見る



永明稻荷社社殿





参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/bane2161/fukavaiyou.html>

<http://saipo.net/oshiro/65010005.html>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/park/o5/fukaio.htm>

<http://www.siromegu.com/castle/saitama/fukava/fukava.htm>

<http://saipo.net/11218115.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/hukayasi.htm>

<http://www42.tok2.com/home/hakubutukan/musashi/fukava.html>

<http://takayama.tonosama.jp/html/fukava.html>

<http://www2.plala.or.jp/tyosokabe/shiseki126.html>

<http://castleinformation.blog.so-net.ne.jp/archive/20111103>

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/105fukava/fukava.html>

